

# 外国人に学ぶ飯田の魅力

風越高  
国際教養

## 法政大の留学生と交流

法政大学国際文化学

部では飯田下伊那研修

発表した。

部の留学生5人が7日、飯田風越高校を訪問し、国際教養科の2年生42人と交流した。風越高を訪れたのは、中国と韓国、ベトナム出身の男女。前段

では飯田下伊那研修(1〜8日)の成果として山村留学、飯田の多文化共生、リニア中央新幹線、長野県の人形浄瑠璃、ベトナム人を中心とした飯田の外国人について個別に

2020年には外国から多くの人が来る。どうしたら飯田にも来てもらえるか、高校生なりに考えて」と呼び掛け

小グループに分かれて開いた交流会で風越高生は、日本に来た理由や卒業後にしたいこと、日本人とベトナム人の違いなどについて

卒業後は「日本全国を旅して東京にない魅力に触れ、人とふれあいたい」というドンさんは「田舎出身なので阿南町などの下伊那を訪れるとふるさとのように感じる。ていざなすはなんであんなにデカいのか、とても興味がある。ここは水がうまいからそばもうまい」などと飯田の印象

には何も無い」という女生徒には「何も無いのでなく、楽しみの探し方が足りないのでは? 僕は大学の応援団に入っているが、厳しい環境、限られた状況の中でどうすれば楽しめるか考えるのは楽しい」と応じた。

オランダに留学経験のある米川マリアさん(18)は終了後「(ベトナム人は人と人の距離感をすぐに縮め、日本人はある程度距離を置くといった)違いが面白いと感じた。今まで田の良い点、満蒙開拓、飯田と中国の高校生との暮らし、日本のフアッション、人形劇、日韓の違いなどが話題楽しさがあることが分



ベトナム人留学生(右)と交流する国際教養科の生徒(風越高で)

楽しさがあることが分